

■コメント

1. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

定点当たり報告数は3.58人と増加し、例年同時期と比較してかなり多くなっています。

今年の患者を年齢別でみると、3歳から7歳の報告数が全体の61.4%を占めています。

患者との濃厚な接触を避け、マスクの着用や手洗い・うがいの励行など感染予防に努めましょう。

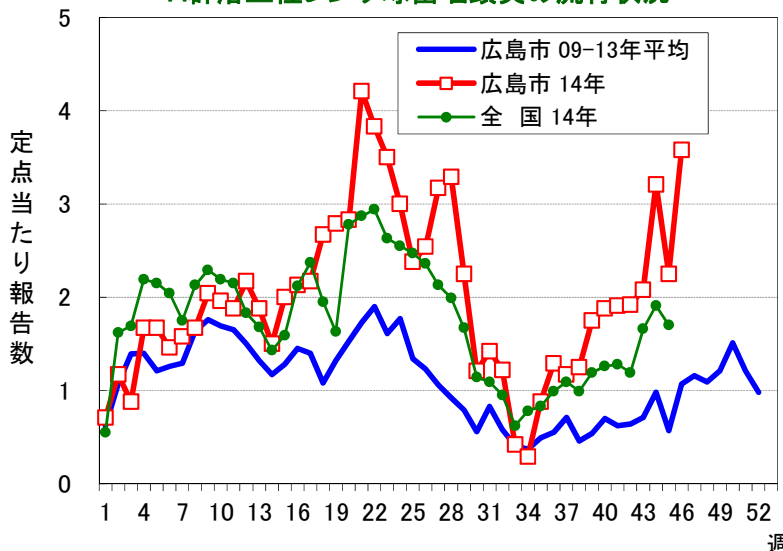
2. インフルエンザ

定点医療機関から16人(定点当たり0.43人)報告されています(迅速診断キット:A型陽性13人、B型陽性3人)。

3. つつが虫病

2件の報告があり、今年の累計は4件となりました。2週続けての発生(2週で計3件)となっており注意が必要です。(次頁参照)

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の流行状況



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号
小児科	インフルエンザ	16	0.43	7.89	⇒	小児科	流行性耳下腺炎	20	0.83	0.82	⇒
	咽頭結膜熱	10	0.42	0.48	⇒	眼科	RSウイルス感染症	19	0.79	0.60	⇒
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	86	3.58	1.07	⇒	眼科	急性出血性結膜炎	1	0.13	0.03	⇒
	感染性胃腸炎	109	4.54	5.97	⇒	基幹	流行性角結膜炎	3	0.38	0.90	⇒
	水痘	19	0.79	1.28	⇒	基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	⇒
	手足口病	29	1.21	0.24	⇒	基幹	無菌性髄膜炎	-	-	0.11	⇒
	伝染性紅斑	-	-	0.10	⇒	基幹	マイコプラズマ肺炎	1	0.14	0.43	⇒
	突発性発しん	10	0.42	0.57	⇒	基幹	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	0.03	⇒
	百日咳	-	-	0.15	⇒	基幹	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	⇒
	ヘルパンギーナ	2	0.08	0.03	⇒						

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↖	↙	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	→	←	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	2	161	女性(30歳代)・1人、男性(70歳代)・1人
4	つつが虫病	2	4	男性(30歳代)・1人、女性(50歳代)・1人
5	アメーバ赤痢	1	11	男性(40歳代)
5	侵襲性肺炎球菌感染症	1	9	男性(10歳未満)

■定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

			インフル エンザ	咽頭結 膜熱	A群溶 血性レ ンサ	感染性 胃腸炎	水痘	手足口 病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパ ンギー ナ	流行性 耳下腺 炎	RSウィ ルス感 染症	急性出 血性結 膜炎	流行性 角結膜 炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズ マ肺炎	クラミ ジア肺 炎	(ロタ ウイルス)	感染性 胃腸炎
報告数	広島市	第42週	1	5	46	73	13	6	-	12	1	4	25	31	-	6	-	-	-	-	-	-
		第43週	6	5	50	91	11	14	-	23	-	5	20	27	-	6	-	1	1	-	-	-
		第44週	11	3	77	95	14	21	-	15	1	3	31	32	1	8	-	-	1	-	-	-
		第45週	15	4	54	72	27	20	1	9	3	4	20	27	-	7	-	-	1	-	-	-
		第46週	16	10	86	109	19	29	-	10	-	2	20	19	1	3	-	-	1	-	-	-
定点当 たり	広島市	第42週	0.03	0.21	1.92	3.04	0.54	0.25	-	0.50	0.04	0.17	1.04	1.29	-	0.75	-	-	-	-	-	-
		第43週	0.16	0.21	2.08	3.79	0.46	0.58	-	0.96	-	0.21	0.83	1.13	-	0.75	-	0.14	0.14	-	-	-
		第44週	0.30	0.13	3.21	3.96	0.58	0.88	-	0.63	0.04	0.13	1.29	1.33	0.13	1.00	-	-	0.14	-	-	-
		第45週	0.41	0.17	2.25	3.00	1.13	0.83	0.04	0.38	0.13	0.17	0.83	1.13	-	0.88	-	-	0.14	-	-	-
		第46週	0.43	0.42	3.58	4.54	0.79	1.21	-	0.42	-	0.08	0.83	0.79	0.13	0.38	-	-	0.14	-	-	-
	全国	第44週	0.16	0.37	1.91	4.23	0.84	0.75	0.23	0.57	0.01	0.17	0.28	1.09	0.01	0.50	0.01	0.03	0.33	0.02	0.02	0.02
		第45週	0.22	0.39	1.70	4.19	0.97	0.65	0.19	0.53	0.01	0.13	0.28	1.06	-	0.43	0.01	0.02	0.27	0.02	0.01	0.01

■新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
インフルエンザ	発熱(38.9)	82	女	2014/11/09	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスA(H3)型
百日咳	発熱(37.2) 上気道炎	0	男	2014/09/18	咽頭拭い液	百日咳菌(第40週報告済) ライノウイルス
その他の呼吸器疾患	発熱(40.0) 上気道炎 結膜炎 熱性痙攣	2	男	2014/09/20	咽頭拭い液	ライノウイルス パラインフルエンザウイルス2型

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

【参考】野山のダニに注意しましょう

—つつが虫病／日本紅斑熱／重症熱性血小板減少症候群(SFTS)—

つつが虫病は、つつが虫病リケッチアを保有するツツガムシ(ダニの一種)の幼虫に吸着されることで感染する病気で、広島市では毎年秋から初冬にかけて多くなります(グラフ参照)。

日本紅斑熱は、日本紅斑熱リケッチアを保有するマダニ類に吸着されることで感染する病気で、患者の発生時期はほとんどが4月～10月です。

ともに潜伏期間(つつが虫病:5～14日、日本紅斑熱:2～8日)を経た後、頭痛や倦怠感を伴って発症します。症状の主な特徴は、発熱、ダニの刺し口、発しんの3つです。

SFTSは、まだ広島市では発生の報告はありませんが、SFTSウイルスを保有するマダニにより感染し、多くの場合、春から秋頃にかけて患者が発生しています。

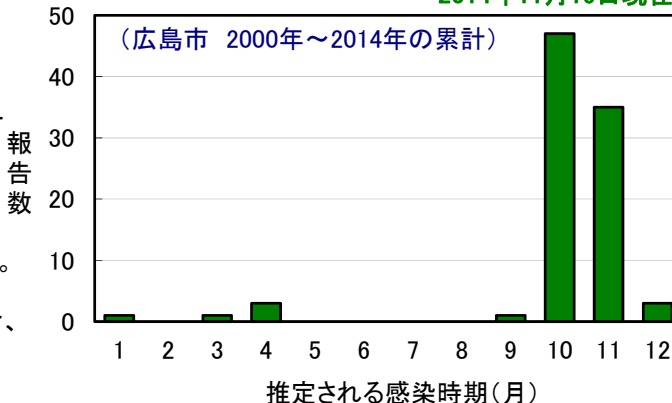
これらのダニ類が媒介する感染症を予防するため、

・野山に入るときは、長袖・長ズボンなどを着用して皮膚の露出を少なくし、ダニの付着を防ぐ

・屋外活動後はすぐに入浴し、ダニが付着していないかチェックする

などの対策をとることが重要です。

つつが虫の感染月別報告数(2000年以降累計)
2014年11月16日現在



(注)上のグラフは、2000年から2014年のつつが虫の届出116件のうち、感染時期の記載のあった届出91件について感染月別に集計したものです。ほとんどが10月から11月の間に感染しており、この時期は特に注意する必要があります。

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。

URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号

TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp

2014年第46週(11月10日～11月16日)